

1 全体概要

低炭素社会の実現に向けたCTCのグリーンICT戦略

伊藤忠テクノソリューションズ（以下、CTC）は、最新テクノロジーを活用したICTインフラのエネルギー効率改善に向けたソリューションの提供、改正省エネ法対応サービスやEMS（エネルギーマネジメントシステム）の提供、さらにはスマートシティプロジェクトへの参加や新エネルギー関連ソリューションの提供など、低炭素社会の実現に向けたグリーンICTへの取り組みを加速している。

低炭素社会実現に向けたCTCのグリーンICT戦略

昨年12月に開催された「第15回国連気候変動枠組条約締約国会議（COP15）」では、「ポスト京都議定書」すなわち2012年以降の国際的な温暖化対策の枠組みに関する最終合意は得られなかったもののICTの重要性が再確認された。数年前より、ICT自体の省エネ化とICTを活用することによる環境負荷低減の両面からなるグリーンICTが脚光を浴びており、最近では産業を横断する形のスマートグリッドやスマートシティによる低炭素社会の実現に向けた取り組みが加速している。

環境関連の取り組みから新市場を創出する機運が国際的にも高まりつつある中、CTCは早くから手を打つ。「2008年度より社内の事業グループ横断のプロジェクトチームを発足させ、ICTインフラの最適化に向けたグリーンof ICTと、ICT活用による環境貢献に向けたグリーンby ICTの両面からなるグリーンICTソリューションの提供に向けた取り組みを推進してきました。」（ITビジネス企画推進室 田中匡憲部長）

CTCでは、情報通信事業グループ

や科学システム事業部、データセンター事業グループ、クロスファンクショングループ等が一体となって、ICTの利用において環境負担を軽減する“グリーンof ICT”と、ICTを活用して環境問題に貢献する“グリーンby ICT”の両面で、低炭素社会の実現に貢献するソリューションやサービスの提供に注力している。

全体最適を視野に、3つの切り口で処方箋を用意

CTCの考え方はこうだ。「グリーンof ICTの実現には3つのアプローチが必要と考えています。その3つとは、“ICTシステムの最適化”“ファシリティ環境の改善”“グリーンなデータセンターの活用”



伊藤忠テクノソリューションズ(株) ITビジネス企画推進室 クラウドビジネス企画推進部 部長 田中 匡憲氏

んなデータセンターの活用”であり、図1に示す処方箋を用意しています。これら3つのアプローチはお客様の状況に応じてどの領域から始めてもよく、全体最適を視野にトータルに対処できるというのがCTCの強みです。」（田中部長）

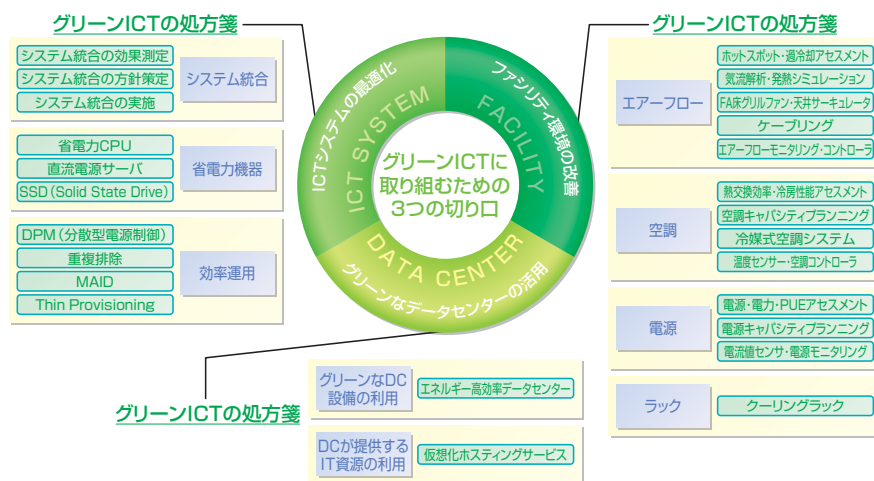


図1 CTCが提供するグリーンICTの3つの処方箋

● ICTシステムの最適化

ICTインフラにおけるエネルギー効率を改善する処方箋として、システムの仮想化・統合化、省電力機器の導入、ICT機器の運用改善といった3つの要素に対応したソリューションを用意している。

● ファシリティ環境の改善

ファシリティ環境の改善については、エアフロー、空調、電源、ラックなどの最適化が必要となる。このためには単に設備側の観点でファシリティ要素を設計・構築するだけでなく、ICTを考慮したファシリティマネジメントが必要になる。CTCでは、環境測定から計画策定、実施、運用後の継続的な制御までを最適化するICTを考慮した総合的なサービスとして「ITFM (IT Facility Management)」を提供している。

● グリーンなデータセンターの活用

電力使用量が肥大化しているデータセンターの省エネグリーン化には、ICT機器に加え空調機器消費電力を削減する対策が不可欠だ。グリーンなデータセンターの活用についてCTCでは、環境配慮として先駆的な取組みを具現化した「目白坂データセンター」の活用と、仮想化技術等を駆使したホスティングサービス「TechnoCUVIC」の2つの処方箋を提供している。

「3つの切り口の処方箋について、技術や製品の進化に合わせて、対応するサービスや製品のラインナップの拡充を図っていきます」(田中部長)と述べている。

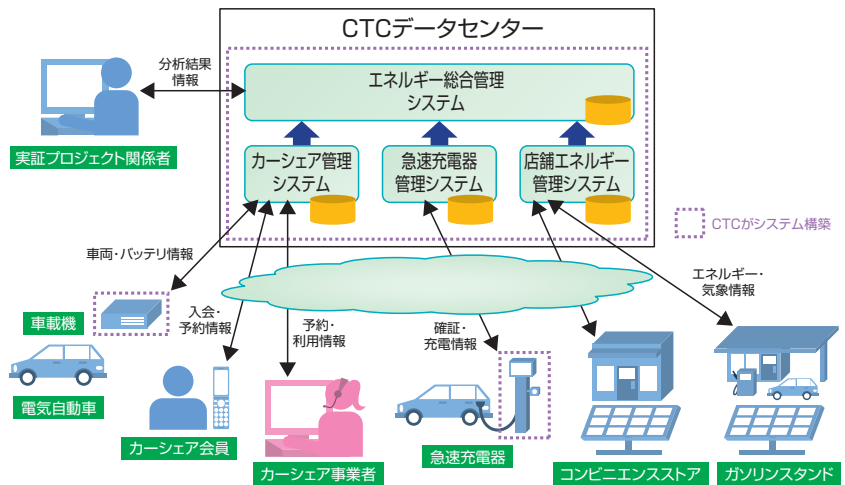


図2 スマートシティプロジェクト (つくば市事例)

エネルギーマネジメントに加え、次世代エネルギー創出支援にも注力

CTCでは、グリーンby ITに関連するサービス/ソリューションとして、改正省エネ法対応のクラウド型サービス「ecoFORTE」や、東光電気との協業による遠隔管理型のエネルギーマネジメントシステム(EMS)、商用車両向けクラウド型のテレマティクスサービス「MAMS (Mobile Asset Management Service)」等の提供に加え、クリーンな再生可能エネルギーの分野での取組みも加速している。

クリーンエネルギーの創出に関連したサービスの一つとして、CTCが独自に開発した局所気象予測のシミュレーション技術を用いて、クリーンエネルギーとして注目を集める風力発電や太陽光発電の発電候補地の選定から需要予測までを支援するサービスを提供している。

またCTCは、低炭素社会を実現する次世代環境都市モデルの構築を

支援する「スマートシティプロジェクト」の一環で、伊藤忠商事など15社が本年5月からつくば市で開始する低炭素交通社会システムの共同実証プロジェクトに、コアメンバーとして参画する。本プロジェクトは、つくば市内のコンビニエンスストアやガソリンスタンドに太陽光発電システムと電気自動車 (EV) 用の急速充電設備などを蓄電池とともに設置し、関連する情報をCTCのデータセンターに集める。これにより、EV、急速充電器、定置用蓄電池、太陽光発電及びカーシェアリングを連携させた低炭素交通社会システムを実証する総合的な取組みとなる (図2)。

さらにCTCは、国内外で大きな注目を集めるスマートグリッド (次世代送電網) に関し、新エネルギー・産業技術総合開発機構 (NEDO) が米国と共同で進めるニューメキシコ州でのスマートグリッド実証事業の事前調査委託先の1つに決定している。